

「総合的な学習の時間」モデル事業中間報告書

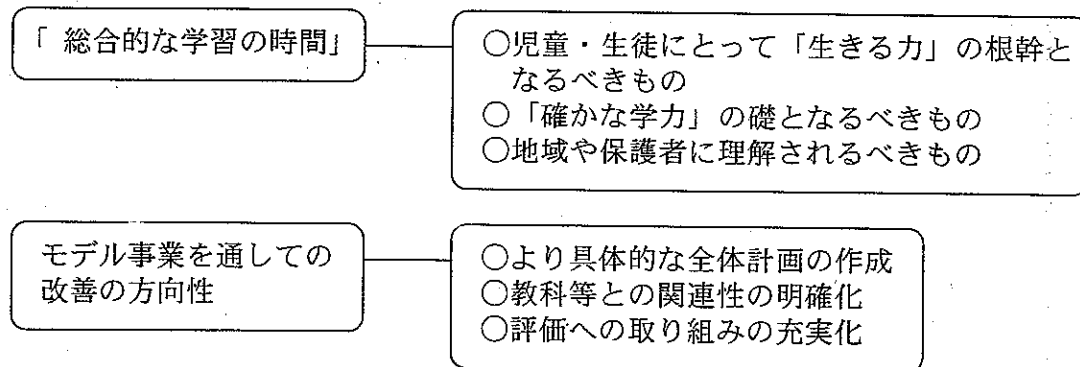
(推進地域名：愛知県)

I 地域の概要

東海市立上野中学校区 (モデル校数：小学校1校，中学校1校)
東海市立横須賀中学校区 (モデル校数：小学校3校，中学校1校)
東海市立加木屋中学校区 (モデル校数：小学校2校，中学校1校)

II 愛知県における「総合的な学習の時間」の現状

1 県として「総合的な学習の時間」の改善，充実を図るねらい



2 県における「総合的な学習の時間」の問題点とその背景 (近因，遠因)

- 各学校ごとの「総合的な学習の時間」の問題点と背景
 - ◇教科等との関連性が不明確で、「総合的な学習の時間」で培った判断力や課題解決の資質や能力を生かす場や方法があいまいである。
 - ◇「総合的な学習の時間」の一環としての体験活動にかかる費用負担や職員体制等，問題点が多い。
 - ◇教室での学習，体験学習，評価等，「総合的な学習の時間」におけるそれぞれの場面での教師の支援のあり方の研究が進んでいない。
 - ◇全体計画の中での「総合的な学習の時間」の教科等との関連，地域との結びつき，根本的なねらい，手段，フィードバックの記述が不明確である。
 - ◇教師の共通認識の甘さがある。(例：ねらい，評価規準等)
 - ◇地域や児童・生徒の実態を十分に踏まえた特色ある「総合的な学習の時間」への取り組みへの計画が不十分である。
- 学校間連携という観点での「総合的な学習の時間」の問題点と背景
 - ◇小・中の学習内容の系統性が十分に把握されていない過程での全体計画なので観点が明確でない。
 - ◇小・中の児童・生徒が合流した「総合的な学習の時間」を想定した場合，長期休業中での実施を検討する組織づくりがなされていない。
 - ◇学習指導要領の記述を見直した，またその趣旨を一層明確にした全体計画に学年間，学校間，学校段階間の連携等が明示されていない。

○地域の教育力の活用という観点での「総合的な学習の時間」の問題点と背景

- ◇地域人材登用という面において、ボランティアという形での実施が困難になりつつある。
- ◇学校側の地域人材登用に対しての積極的な働きかけが少ない。
- ◇公民館・図書館・博物館や社会教育関係団体との連携・協力、地域の施設や経験豊かな人材等の教育資源の開発に遅れを感じる。

Ⅲ 平成15年度の実践研究の概要

1 各県(都)の抱える問題点(Ⅱ-2)を踏まえて定めた、推進地域全体としての研究の計画・見通し等

○2年間を通じた研究の計画・見通し

① 解決すべき課題

- ◇ねらいをはっきり明示し、教科等の関連性を十分に踏まえた「総合的な学習の時間」の全体計画の作成
- ◇同校区の小・中学校間連携のある「総合的な学習の時間」の全体計画の作成と地域と結びついた体験活動のあり方
- ◇「総合的な学習の時間」における地域施設の効果的な利用と地域人材の活用のあり方

② 具体的な取組・方策

- ◇各モデル校とモデル地域に「総合的な学習の時間」の全体計画を提出させ、具体的なチェックと指導を行う。
- ◇各モデル校もしくはモデル地域において「総合的な学習の時間」の活動の様子を実際に参観し、研究協議会をもつ。

③ 取組の時期

- ◇全体計画の提出・・・4月当初
- ◇県としての参観・・・6月

○モデル事業としての取組の評価の観点と検証の方法

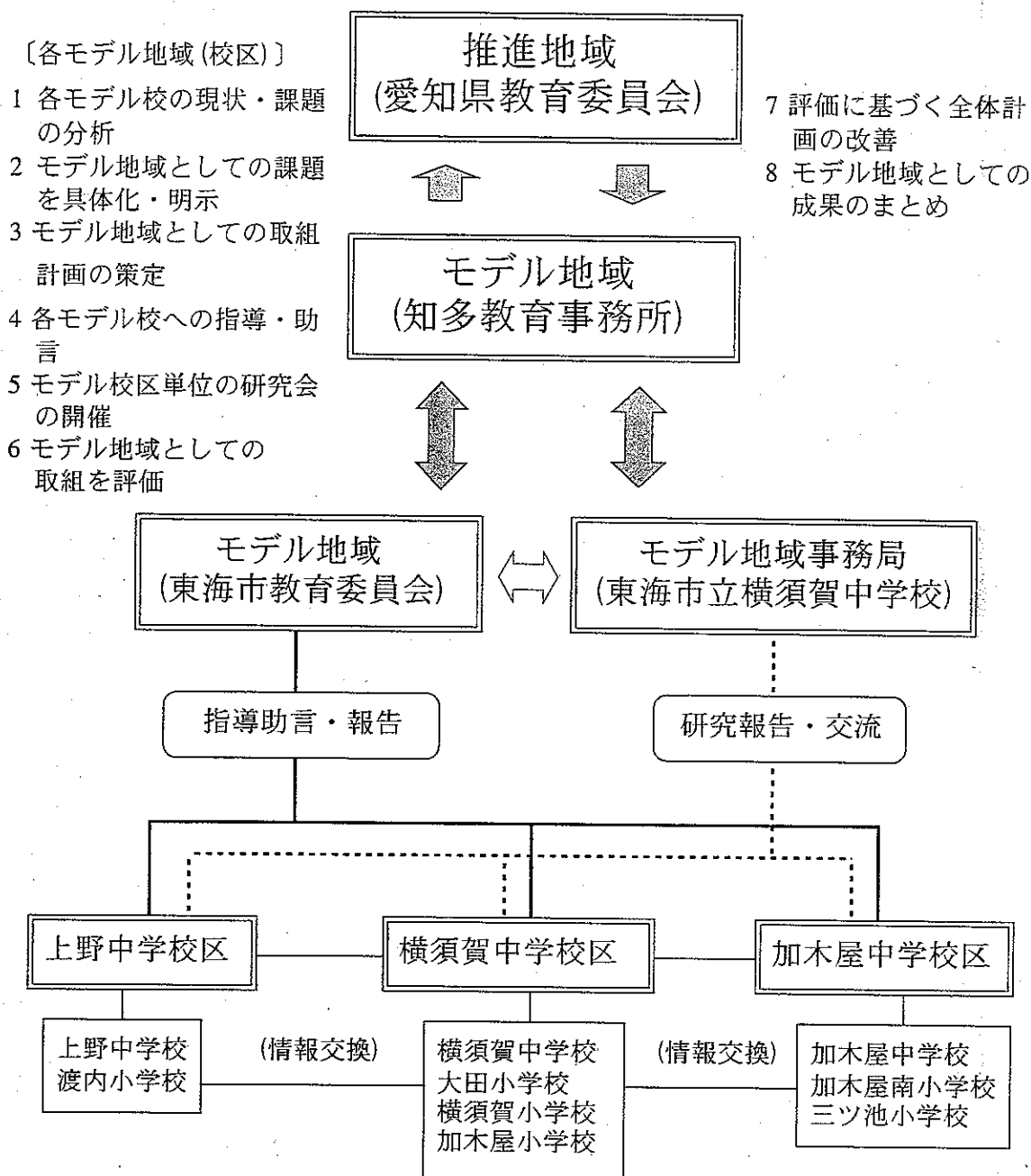
(観点)

- ◇「総合的な学習の時間」全体計画の中に各教科等との関連を踏まえた計画がなされ、児童生徒の問題解決的な活動の中で、そのねらいが十分達成されたか。
- ◇小・中学校間の連携のもと、「総合的な学習の時間」の活動を通して、子ども個々につけたい力が子どもの発達段階に応じてついたか。
- ◇上記2つの活動の手だては適切であったか。

(検証)

- ◇生徒の自己評価カード・教師記入用の児童生徒個々の観察カード、ポートフォリオによる検証をさせ、各モデル校区ごとに文書として提出させる。
- ◇各モデル校への「総合的な学習の時間」の参観を実施し、検証する。
- ◇児童生徒と保護者の意識調査の実施からその変容と課題を探る。

2 本事業の推進体制



〔各学校〕

- 1 「総合的な学習の時間」の現状・課題の分析
- 2 モデル地域としての課題を踏まえ、自校の課題を具体化
- 3 モデル地域としての計画を踏まえ、全体計画を策定
- 4 具体的な取組の実施
- 5 各学校ごとに取組を評価
- 6 評価に基づく全体計画、指導状況等の改善
- 7 各学校としてのまとめ

3 平成15年度の実践研究に対する指導と成果の普及

(1) モデル地域に対して行った指導

① 指導事項

- ◇「総合的な学習の時間」を「問題解決的学習」ととらえ、教師の支援のあり方
- ◇モデル地域における小・中学校間の連携
- ◇「総合的な学習の時間」と各教科等との関連性の明確化
- ◇「総合的な学習の時間」の評価規準の設定と具体的な評価方法のあり方
- ◇地域の施設の利用や地域人材の登用のあり方

② 指導の方策・方法

- ◇各モデル校区・各モデル校における研究組織の見直しを図る。
- ◇各モデル校区の小・中学校間の指導内容の流れを全体計画に盛り込む。
- ◇各モデル校の全体計画に各教科等との関連が明確になるように全体計画に明示する。
- ◇「総合的な学習の時間」の評価についても、各教科の「評価規準」と同様に考え、「評価規準表」を設け、具体的な評価方法も明記する。
- ◇地域の施設マップや地域人材一覧表を作成し、学年ごとに段階ごとに計画的に利用できるようにしておく。

③ 指導後の状況把握の取組

- ◇各モデル校区・各モデル校ごとに加除修正を加えた全体計画表の提出(16年度1学期終了後提出)
- ◇「総合的な学習の時間」に関する評価規準表(具体的な評価方法も含む)の提出(2学期始め提出)

(2) 地域の取組の成果普及のための活動について

- HPの作成・・・東海市教育委員会と各モデル校とのリンク
- 地域を対象にした発表会・・・横須賀中学校区の『「総合的な学習の時間」パンフレット作成 中間発表会』開催
- 広報紙の作成・・・加木屋中学校区にて作成

4 平成15年度の成果及び課題

○成果

- ◇15年度実施した「総合的な学習の時間」を常に反省しながら、全体計画に加除修正を加えた結果、各教科等との関連性、小・中学校間の連携を踏まえた全体計画の作成ができた。
- ◇児童生徒の活動に積極的な姿勢が見られるようになり、教師の側にも児童生徒への支援の仕方に関して工夫が見られるようになった。
- ◇地域への広報紙配布、『「総合的な学習の時間」中間発表会』等を通して、地域の学校への関心も高まり、地域人材の登用もスムーズになった。

○課題

- ◇「総合的な学習の時間」と各教科との関連性、また小・中学校間の段階的な発展性を踏まえた連携を15年度以上に進める必要がある。
- ◇「総合的な学習の時間」のねらい・子ども個々につけたい力・その手だてを全体計画の中で再確認する必要がある。
- ◇校区・地域に「総合的な学習の時間」の情報をさらに流し、学校と地域の結びつきを強めることが必要である。

IV 平成16年度の実践研究の概要

○平成15年度の成果及び課題を踏まえて

①16年度特に取り組みたい課題

- ◇東海市単独の「総合的な学習の時間」のカリキュラムと各モデル校区のカリキュラムの融合性ある全体計画の作成
- ◇小・中学校間連携と各教科等との関連を十分に取り入れた「総合的な学習の時間」の全体計画作成
- ◇「ねらい・子ども個々につけたい力・その手だて」を考慮した評価規準の作成
- ◇15年度の反省をもとにした研究に携わるすべての部分の再構築

②具体的な取組・方策

- ◇教育事務所、市教育委員会、各モデル校区代表者による研究推進の打合会の実施
- ◇各モデル校への「総合的な学習の時間」の参観・指導
- ◇全体計画表と評価規準表の文書による提出

③取組の時期

- ◇16年4月～8月で実施

○そのために、特にモデル地域に対し指導すべき事項

①指導事項

- ◇15年度の研究成果と課題の十分な把握と16年度の研究の具体的な方向性の確認
- ◇15年度の反省の上にたった(小・中学校間の連携と各教科等の関連性を盛り込んだもの)全体計画の作成
- ◇15年度の子どもへの評価方法の反省を生かした評価規準表作成への取り組み
- ◇保護者・地域への「総合的な学習の時間」の情報提供

②指導の方策・方法

- ◇教育事務所、市教育委員会、各モデル校区代表者による研究推進の打合会での指導・助言
- ◇各モデル校への訪問による指導・助言
- ◇文書提出による指導・助言